

2005.8.23 武蔵野市 村田あが

PI 外環沿線会議「構想段階の議論の区切り」 としての意見表明

1. PI 外環沿線会議について

- ・PI 外環沿線協議会において積み残した論点を整理し議論したが、その目的は達せられた。
- ・資料「外環の必要性」がとりまとめられ、これは東京外かく環状道路の計画に関する技術専門員会による技術的視点からの検討も経ることができ、より客観的な資料となった。

2. PI 外環沿線協議会から PI 外環沿線会議に至る PI 手法について

- ・PI 的手法をとることは好ましいが、今後は会議の枠組みを明確にし、時間管理を徹底する必要がある。
- ・専門家による進行管理、運営へのアドバイス、客観的な評価も加えながら進める必要がある。
- ・議論すべきテーマを抽出した後は、分科会などに分かれて、議題を特定し集中的な討論を時間を限って行う必要がある。
- ・委員会メンバーは固定せず、むしろテーマごとに異なる多くの市民の参加が望ましい。

3. 東京外郭環状道路の計画について

- ・外環道は首都圏の環状道路として、都市計画上必要性の高い道路であり、十分に検討し最良の方法をとって計画を進める必要がある。幹線道路のネットワーク化が重要であるため、今時の南進を検討する旨の発表は好ましい。
- ・沿線住民による外環に関する会議においては、大深度地下方式における検討事項として、地上部についての検討も重要であり、住民の生活に直接影響を及ぼす事項であるが、この問題が掘り下げられなかったことは残念である。
- ・沿線住民の要望には今後も丁寧に応答する必要があり、各段階におけるより詳しい情報の開示が望まれる。
- ・今後早い段階における計画全体のタイムスケジュールの提示が望まれる。計画線内及び近隣の住民にとっては、いつ、どの段階で何がおきるのか、それに対してどのような対応の選択肢があるのか、についての早めの情報提供が最も重要である。
- ・道路のネットワーク化は幹線道路のみの問題ではない。外環道計画に関わる地域の周辺道路への影響、及び地域の道路のネットワーク化も併せて提案、整備されるべきである。